

(5) 30代から50代の女性が持つホルモン補充療法に関する知識と意識

川崎医療福祉大学大学院保健看護学専攻修士課程 ○同前 早紀

川崎医療福祉大学保健看護学科 杉浦 絹子

【要 旨】

〔目的〕

本研究は、30代から50代の女性が有する HRT に関する知識と意識の現状を先行研究結果と比較する視点で、明らかにすることを目的とする。

〔方法〕

30代から50代の女性を対象に、無記名自記式質問紙調査を行い、得られた318部から（有効回答率64.3%）、以下のことが明らかになった。

〔結果〕

HRT の効果については「よく知っている」「知っている」と回答した者90人（28.3%）、「知らない」「全く知らない」と回答した者172人（54.1%）であった。

HRT を予防的に使用したいかという問いに対し、「とても使用したい」「使用したい」と回答した者（以下肯定群とする）は77人（24.2%）であり、「使用したくない」「全く使用したくない」と回答した者（以下否定群とする）は60人（18.9%）であった。

HRT を対処行動として使用したいかという問い

に対し、肯定群は121人（38.0%）であり、否定群は57人（17.9%）であった。

HRT の存在を知っているかという問いに対して「はい」と回答した認知群と、「いいえ」と回答した非認知群にわけ、「HRT の予防的使用」において差があるかをみるために χ^2 検定を行った結果、認知群と非認知群との間に有意差（ $p = 0.018$, χ^2 値 = 11.919, $df = 4$ ）が認められ、HRT の対処的使用においても有意差（ $p = 0.026$, χ^2 値 = 11.043, $df = 4$ ）が認められた。

〔考察〕

HRT の使用に関する意向は、肯定群の方が多く、更年期症状に HRT を用いる意向があると考えられる。しかし、「使用したくない理由」の中では HRT が普及し始めた当初と変わらない意識もみられた。

HRT は存在自体は広く認知されるようになってきているが、効果の内容や副作用については非認知群が多く、正しい知識を持って、対処行動として選択している者は少ないと考えられる。